

友の会だより

No.60

2020.2

茨城県陶芸美術館友の会

展覧会
案内

ガレの陶芸 世紀末の煌めき 昆虫・植物・ジャポニスム

会期／令和2年1月2日(木)～3月8日(日)

主催／茨城県陶芸美術館



▲花器 ウミユリ文 1889年頃～1904年



▲小鉢 昆虫文 1889年頃～1904年



▲花器 団扇形 1877年頃～1904年



▲花器 蝶文 1877年頃～1904年

現在開催中の「ガレの陶芸」展は、19世紀末、フランス北東部のナンシーを拠点に活躍したアール・ヌーヴォーの巨匠、エミール・ガレ（1846-1904）の、陶芸作品に焦点をあてた展覧会です。ガレはガラス、陶芸、木工家具の三分野で活躍した作家ですが、日本では特にガラス作品に注目されることが多く、これまで陶芸をメインでとりあげた展覧会は、ほとんど開催されてきませんでした。そのため、その全貌は広く知られてはいません。本展は、国内未公開の作品も数多く含む約90点の陶芸作品から、その魅力や全体像を紹介する貴重な機会です。

ガレは、ナンシーで高級ガラスや陶磁器の販売店であるガレ商会を営む、父シャルル（1818-1902）のもとに生まれ、10代のころから自社の工房で絵付や陶磁器のデザインの修業を積んだのち、父から経営を引き継ぎます。以降は独自の感性を発揮し、斬新な形や色、装飾の作品をデザインし、それを自社の職人たちに作らせることで、多くの作品を発表しました。その独創性は万国博覧会の陶器の部門で金賞を得るなど、当時から高い評価を得ていたことがわかっています。

本展では、そうしたガレの陶芸を、作品のスタイル別に6章に分けて紹介することで、その全体像を紹介しています。伝統の表現から着想された作品、ジャポニスムをはじめとする、異国趣味の作品、そして独自性が最も発揮された、虫や花などの動植物をモチーフとした作品など、ガレのたぐいまれな独創性と、陶芸にかける情熱が感じられる内容となっています。本展は当館の自主企画で、巡回予定はございません。知られざるガレの陶芸の魅力をご堪能ください。

◆展覧会関連催事のご案内

*詳細は、チラシや当館ホームページ等をご覧ください。

●講演会「ガレの陶器制作をめぐって」

ガレ研究の専門家である山根郁信氏に、ガレの陶芸制作を中心に、ガラスや家具作品との関連に触れながらご講演いただきます。

講師：山根郁信氏（美術史家） 日時：2月22日（土）13：30～15：00

会場：当館1階多目的ホール 参加費：無料 定員：120名（予約不要）

※展覧会の観覧には別途、観覧料が必要です。講演会当日（2月22日）は、70歳以上は観覧料無料です。

●担当学芸員によるギャラリートーク

日時：2月8日（土）13：30～ 参加費：無料（観覧料にてご聴講いただけます）

茨城県陶芸美術館ホームページ <http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

土の魅力に惹きつけられて

久米みどりさんを訪ねて(11月21日)

植物や海中生物を思わせる有機的な形の陶オブジェを制作している久米みどり氏を水戸市の工房にうかがいました。



ご出身は

茨城県岩瀬町(現桜川市)に生まれました。

陶芸の道に進まれた経緯についてお聞かせください

染織を志し、武蔵野美術大学短期大学部工芸・デザイン科に入学しましたが、学生運動の影響で長期休校になることが多く、ほとんど実技もできない状態でした。そんな時でも、彫塑部で人体やレリーフを作製する機会が残されていました。この時の心地よい土の感触が忘れられず、弟子入りを考えて萩を訪れました。しかし、女性にとらないこと、小柄な私の体力では無理なこと、どこへ行っても受入は無理だからあきらめなさいと説得され、陶芸に進むことを断念しました。卒業後、少しでもクリエイティブな仕事を求めて、七宝焼きの工房で絵付けをしたり、店舗設計事務所でデザインの仕事をしました。その後、結婚、子育て、親の介護と瞬間に時間が過ぎ、47才になってやっと土に触れるチャンスが来ました。27年を経て再び粘土に触ったとき、沸々と創作の喜びを感じ、作りたいものが溢れてきて、絶対に手放したくないと思いました。それは、師から学ぶというよりは「作りながら学ぶ」という作陶でした。

作品作りについてお聞かせください

作陶を始めて5年の間に「語らひ」「記憶のか・け・ら」「古代花」「Megu」シリーズが生まれ、6年目に「巢のか・た・ち」が生まれました。浮かんだイメージをゆっくりと形にし緩やかな焼成をして、作品が呼吸しているかのように仕上げたいと思っています。焼成は、300℃まで15~18時間でゆっくり上げていき、最高温度までさらに12~15時間かけて焼き上げます。その方法は危うい形の作品を焼くために独自に考えた焼成方法で、初期から実行しています。また、オリジナルのブレンド土を作る作業も大事にしています。それによって土の収縮率(通常12~15%)を3%まで小さくすることができ、思い描く形を作ることが可能になっていると思っています。生土のまま加飾し素焼きをせずに本焼きをする手法も私の特徴かと思っています。

これからどんな方向に進めますか

これまでのシリーズに終りはありません。自然体で、心のおもむくままに作っていきたいと思っています。一人遊びが好きで面白いと思っていた子どもの時の私と同じ気持ちで、自分の世界を見つめ、自分の中にある分身のようなものを今後も生み出していけたらいいと思っています。

プロフィール

- 1971 武蔵野美術大学短期大学部工芸デザイン科卒業
- 1998 作陶開始、2001年茨城県水戸市に築窯
- 1999 茨城県芸術祭美術展覧会(01年特賞受賞、03年会友賞受賞)
- 2001 第33回日展(01、02年入選)
- 2003 「現代茨城の陶芸展」茨城県陶芸美術館(06、07、09年出品)
- 2005 「われらの時代」展出品/水戸芸術館
 - ソシエテ・ナショナル・デ・ボザール展(05~09年出品、07年Dolly Moreno賞受賞) フランス
- 2007 第19回日本陶芸展(07、19年入選)
- 2008 日仏交流150周年記念展出品/茨城県天心記念五浦美術館
- 2009 2009 Art en Capital 「La fleur fossile」出品/フランス
- 2010 開館10周年記念展「THE KASAMAルーツと展開」茨城県陶芸美術館
- 2011 第9回国際陶磁器展美濃入選/岐阜県
- 2012 「ふしぎ!たのしい!ゲンダイトーゲイ」茨城県陶芸美術館
- 2013 茨城県陶芸美術館コレクション新収蔵品展(13,18,19年)茨城県陶芸美術館
 - OASIS 2013 in Osaka&Istanbul展 大阪府知事賞受賞/大阪・トルコ
 - アートメゾン・ピエンナーレ2013/マドリッド総合芸術センター/スペイン
 - 常陽銀行本店ギャラリー企画個展/水戸市
- 2015 「土から生まれた草・木・花 親子で楽しむ やきもの植物園」茨城県陶芸美術館
- 2017 常陽藝文ギャラリー企画個展/水戸市
 - 無所属、個展(Galerie Ciel、REIJINSHA GALLERY、Nobu's Gallery他多数)



2001 「語らひ」



2007 「薄墨古代花」



2009 「古色古代花」



2011 「墨色古代花」



2015 「花の精・爽」

対談を終えて

「長時間の作陶作業には、体力が必要です。」と話された久米さん。これほどのエネルギーがどこから生まれるのですか?と問わずにはいられません。ひとつひとつの作品に、意味があり、心があり、語らいがある。繊細でありながら壊れない安定感。久米さん、その人を感じました。



11月13日(水)、友の会主催の呈茶会を開催しました。オープンギャラリーに特設会場を設け、席主は昨年に引き続き、表千家原田勝子氏をはじめ社中の方々にお務めいただきました。当日は、企画展「いきもの狂騒曲—陶芸フィギュアの現在—」が開催中であり、茨城県民の日で入館が無料ということもあってたくさんの方が来館されました。参加費500円で抹茶とお菓子を楽しんでいただきました。

国内研修視察 「薩摩焼の発祥と伝統の地を訪ねる」

令和元年12月1日(日)から3日(火)までの2泊3日で薩摩焼(鹿児島県)を訪ねる研修視察を実施し、関実枝子友の会顧問を団長に23名が参加しました。薩摩焼の発祥は慶長の役(1598年)にさかのぼり、島津義弘が連れ帰った陶工たちが薩摩に上陸をしてから400年以上その伝統を受け継いでいます。薩摩焼は、古来「黒もん」(黒薩摩)と「白もん」(白薩摩)に区別され、黒もんは、赤土に黒釉、そば釉などを施したもので素朴な手触りと力強さを感じさせます。白土に透明性の細かい貫入のある釉薬がかかった白もんはまるやかで気品を漂わせ、格調の高さが魅力です。今回の研修は、薩摩焼発祥の地を訪れ薩摩焼の伝統の一端に触れることを目的とし、訪問した各窯元では、薩摩焼の歴史、作品について丁寧に解説していただき貴重な経験となりました。また、美術館では、古今の素晴らしい作品を堪能することができました。

12月1日(日) 龍門司焼企業組合 薩摩伝承館

羽田空港を出発、最初に龍門司焼企業組合を訪問しました。朝鮮半島より渡ってきた朝鮮人陶工により始められた古帖佐焼の流れをくみ、桜島を望む山ふとくに築かれ300年あまりの歴史を守り続けています。黒釉青流し、三彩をはじめ、珍しい鮫肌や蛇蝟など多彩な天然釉により、素朴ながら優美な品格を感じさせます。地元で採取されている粘土と釉薬の原材料を登り窯で焼成しているとのことでした。

指宿にある薩摩伝承館は宇治平等院鳳凰堂を思い起こさせる建物でたくさんの薩摩焼が展示されていました。ボランティアガイドさんの案内で素晴らしい薩摩焼を堪能することができました。

12月2日(月) 指宿長太郎焼窯元 長島美術館 仙巖園

指宿長太郎焼窯元を訪問し、陶主の有山禮石氏と息子さんにご対応いただき、長太郎焼の歴史や作陶について話を伺いました。北海道の旅で流水をヒントに考えついたという「氷列紋」は、15年もの試行錯誤の末に完成した技法とのこと、作陶に対する熱い思いを感じました。その後、長島美術館、仙巖園を見学しました。

12月3日(火) 沈壽官窯

「十五代沈壽官」の表札がかかる門をくぐると、よく手入れされた庭の先に歴史を感じさせる建物が並び静かな佇まいでした。作品を見させていただいた後、十五代沈壽官より薩摩焼の歴史についてお話しいただきました。巧みな話術で、話に引き込まれてしまいました。また、庭には、十四代沈壽官がモデルとされる陶工の歴史を描いた司馬遼太郎の「故郷忘じがたく候」の文学碑もありました。



十五代沈壽官(左から五人目)を囲んで



良い品をそろえてご来店をお待ちしています

友の会特約店のご紹介

アトリエ・フラスカ	0296-72-9322
笠間工芸の丘	0296-70-1313
● 1月22日(水)～ 2月 2日(日)	Healing展 クラフトギャラリーⅠ
● 1月22日(水)～ 3月 1日(日)	桃宴 クラフトギャラリーⅡ
● 2月 5日(水)～ 2月16日(日)	一年後展 クラフトギャラリーⅠ
● 2月19日(水)～ 3月 1日(日)	ひのもと工作室一冬眼明け一展 クラフトギャラリーⅠ
● 3月 4日(水)～ 3月15日(日)	いろいろカップ展 クラフトギャラリーⅠ
● 3月 4日(水)～ 3月15日(日)	Light buoy クラフトギャラリーⅡ
● 3月18日(水)～ 3月29日(日)	新島佐知子作陶展 クラフトギャラリーⅠ
● 3月18日(水)～ 3月29日(日)	新しい容への挑戦 クラフトギャラリーⅡ
● 4月 1日(水)～ 4月19日(日)	たなつる工房展 クラフトギャラリーⅠ
● 4月 1日(水)～ 4月19日(日)	川添莞爾・光爾展 クラフトギャラリーⅡ
● 4月22日(水)～ 9月 6日(日)	笠間焼協同組合 青年部会展 クラフトギャラリーⅠ
● 4月22日(水)～ 5月31日(日)	新進作家陶芸展 クラフトギャラリーⅡ
● 6月10日(水)～ 6月28日(日)	八十島窯展 クラフトギャラリーⅡ
笠間民芸	0296-72-9280
かつら陶芸	0296-72-6688
ギャラリー桜	0296-72-0803
ギャラリー爽風SOHO	0296-72-9121
ギャラリー舞台	0296-73-0700
● 5月23日(土)～ 5月31日(日)	櫻井理人・あゆみ二人展
共販センター	0296-72-5665
きらら館	0296-72-3109
● 1月28日(火)～ 2月 9日(日)	郡司あずさ いとうみほ二人展

- 2月11日(火)～ 2月24日(月) 川田達哉・執子二人展
- 2月26日(水)～ 3月 8日(日) 松下昇二・知子二人展
- 3月10日(火)～ 3月22日(日) 東風舎三人展
- 4月 7日(火)～ 4月19日(日) 岩本鐘平作陶展
- 4月21日(火)～ 5月 6日(水) 伊藤純子・浜野陽子二人展
- 5月 8日(金)～ 5月17日(日) あじさい工房 谷口将海作陶展
- 5月19日(火)～ 5月31日(日) 駒澤博司作陶展

向山窯	0296-72-0194
丹野陶房	0296-72-4028
陶芸館	0296-72-6650
陶正	0296-72-4007
東風舎	0296-72-5205
無限堂	0296-72-1695
やまさき陶苑	0296-72-6865
涼	0296-72-0712
ミュージアムショップ(館内)	0296-72-7105
レストラン「風の丘」(館内)	0296-72-0197

各店舗で買物をされる際、会員証を提示していただくと、陶器が10%割引となります。(一部除外品があります。) 笠間工芸の丘は体験のみ対象です。レストラン「風の丘」は飲み物サービスとなります。

会員募集

茨城県陶芸美術館友の会では、随時会員を募集しています。年会費3,000円(夫婦会員は2人で5,000円)

- 特典1** 常設展が、何度でも無料観覧できます。
- 特典2** 企画展が年2回まで無料で観覧できます。
- 特典3** 会報の無料配付(年3回)を受けられます。
- 特典3** 特約店において、陶磁器等の割引が受けられます。
- 特典4** 友の会主催の各種事業に参加できます。

お問合せは茨城県陶芸美術館友の会事務局までお願いします。
茨城県陶芸美術館友の会事務局(茨城県陶芸美術館内)
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012

編集後記

新しい年を迎えました。美術館では、1月2日より企画展「エミール・ガレの陶芸」が企画展示室で、第2展示室では、「久米みどり展」が開催されています。皆様のご来館をお待ちしております。

友の会だより No.60

発行: 令和2年2月1日
編集・発行: 茨城県陶芸美術館友の会
〒309-1611 笠間市笠間2345
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012
編集委員: 小薬 和子 福家 佳奈 久野 守代
鈴木 充 木川 るりこ